家庭数配布

皿沼小学校校長室通信　第２９号　　令和３年１２月２２日

みずくらいど

校長　加藤雅弘

交通安全も、メタ認知で

昨日は３年生の消防署見学がありました。西新井消防署まで片道徒歩３０分以上の長旅です。私は４月から避難訓練のたびに、「自分の命は自分で守るということが最後には大事になる」と伝え続けてきました。交通安全は一層「自分で守ること」ができなければ、生命の安全を確保できない一人一人に備わってほしい力です。

そこで、夏休み前にも触れた「車をみたらクマと思え」を引用し、皿のっ子前のホールで事前指導を行いました。実は、道路を渡る時に注意する大きなクマ以外にも、歩道内でも、中ぐらいのクマや小さいクマに注意する必要があることを話しました。「自転車かな？」直感の働く児童の反応です。私が伝えたかったのは「ながらスマホの危険性」です。両耳イヤホンでスマホを見ながら自転車を運転して事故になったニュースが一時大きく報じられました。歩道内であっても安全とは限りません。それを防ぐには「周囲の状況をよく見て、自分で判断して行動することが重要であること」、また、コンパクトに縦横を揃えて歩くことが「安全確保」と「迷惑回避」になること、これを児童全員と共有してから出発しました。

出発後、ひんぱんに振り返っていたのは２組の先頭を歩いていた児童です。後ろを振り向き、前後の間隔が開きすぎていないか常に把握し、必要に応じて、声や手ぶりで促していました。別の児童は、サッカーの司令塔のように四方八方に首を振りながら、後ろからくる自転車などにも目をくばっていました。そんな児童のピンチを列の直前にいる別の児童が救います。経路の道路にはガードレールが点在しています。ガードレールがない所からある所へ切り替わる時、前をよく見ていないと接触してしまいます。そのリスクに見舞われた児童に対し、別の児童は、次の同様の場面で、事前に注意喚起していました。

帰り道というのは一般的に、見学の目的を達したゆるみと疲れから集中力が激減します。私は１０月上旬の大根の種まきにも同行していて、帰り道、横断歩道上でケンカが始まったのを目撃しているので、より帰りの行動に着目していました。消防署を出発直後、横に広がっていた児童に対して「縦一列ね」と最後尾の児童から声がかかります。このように、交通や友達を含めた周囲の状況をよく見ながら、的確に声をかけるなど、１０月とは見違えるほど、主体的に取り組む態度が見られ、教員からの指導もほとんど不要で安全に帰校できました。

最後に最も印象に残った場面です。横断歩道を渡っている最中、自動車は見えず遠くから自転車が向かって来るだけでした。私は、全員渡り切れると感じ特段のことはしませんでした。しかし、前との間が少し開いていた児童は、途中で止まり右手をしっかり伸ばして「お先にどうぞ」という意思を示し、さらに深々と頭を下げたのです。自転車には高齢者の方が乗っていたので、ブレーキをかけさせては負担になる、その先の転倒まで考えていたのかもしれません。周年行事代表児童の言葉「これからは私たちがお年寄りを支えていく」この言葉も私の頭に浮かんできました。そこまで瞬間的に考えていない無意識の判断だったかもしれません。いずれにせよ、周囲の状況をよく見て、自分で判断して行動したからこその結果です。

このような潜在的に児童がもっている資質・能力を顕在化させること、そしてそれを価値付けていくことが教育の営みであると改めて実感したとてもうれしい場面でした。